

藤本ハルミの

〈季節の女〉ひと

17

源氏蛩

昭和の始めの頃は、夏の夜も今のように明るくはなく、暮れると電信柱のはだか電球もオレンジ色にぼんやりと足元を照らしていた。

小町といわれた政子叔母さんが、望まれて資産家の次男坊に嫁ぎ、女の子も生まれたのに「もう辛抱できません」と実家である我が家に帰って来たのは夏の夜の出来事だった。

祖母はすでになく、私の両親の前で叔母さんが泣き泣き訴えるように話すのを、襖のかけでそっと聞いていた。

婚家では結婚前の約束を守らず、閑字ボーイの叔父さんには遊び友達
が沢山いて、毎晩のようにマージャンばかり、近所に気の強い姉嫁さん
もいて随分辛い思いをしていたらしい。

江戸っ子の激しい気性の父は怒って、「いつでも婚家へ乗込んで掛け
合ってやる。子供を連れて帰って来い、めんどうは俺がみてやる」と言
い切り、母も言葉をつくしてなぐさめた。

数日後、叔母夫婦が父の前に手をつき、政子叔母さんが「お兄さん、
どうぞ堪忍してください。主人を許して…」と泣き泣きあやまり、叔父
さんも「僕は政子を愛しています。」と言った時、父は一瞬あつけにと
られたような顔をしたが、あとで「馬鹿らしくてもも言えねえ」とに
が笑いしていた。

夕暮れにこうもりが低く飛んで子供達がキヤアキヤア騒いでいる時、
叔母さん達は帰っていった。門を出る時、叔母さんの白い顔が夕闇の中
に咲いた花のように美しかった。

紺の付下げ、紺地に白抜きで葦と蛩であろうか、夏を感じさせる図柄
である。わざと付下げの柄の部分の部分を切ってケープにし、葦のゆるる風情
を考えた

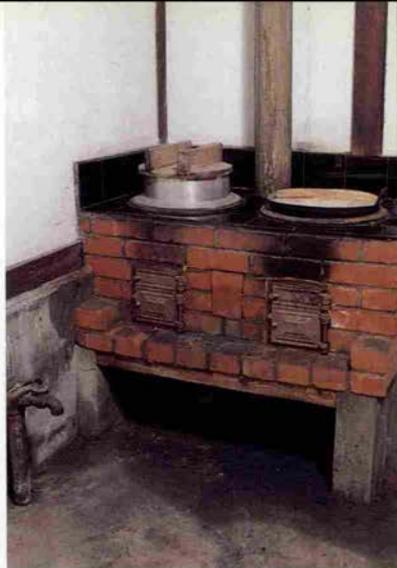
(デザイナ)



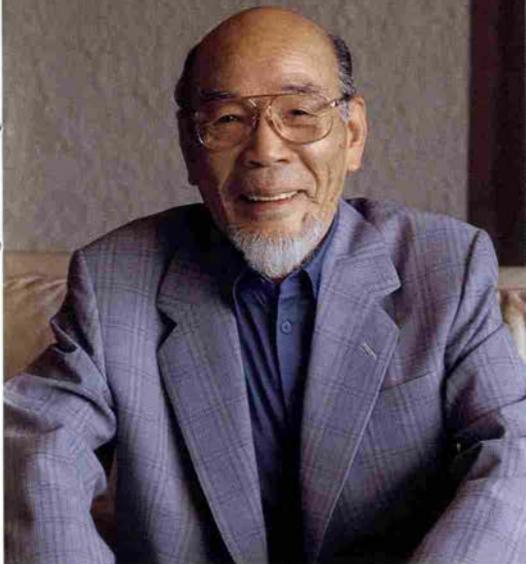
● 寺本淳巳さんが語る……

淡路屋 〃 駅弁 〃 物語

平成五年一月、創立九十周年を迎えた『淡路屋』は今も昔も変わらず、神戸を代表するお弁当屋さん。『肉めし』『ワイン弁当』『しゃぶしゃぶ弁当』……アイテアの効いたおいしいお弁当は神戸つ子の誇り。その歴史を三代目寺本淳巳さんに語っていただいた。



上／駅弁用のご飯を炊いた創業時のかまど
中／部屋番号のついた作業室
下／生瀬に今もある寺本家の母屋



“駅弁物語”を語る寺本淳巳さん(淡路屋3代目)

★生瀬駅での立ち売りから出発

大正2年8月生まれの私は、十二支でいえば丑年生まれ。不思議なことに、我が家は丑年が三代続いております。

まず私・淳巳。そして長男の混と孫の督と、男子系で三代続きの丑年生まれ。

これは、俗に大変勢いの強い隆盛運だということですが。おかげで我家はあちこちに牛のコレクション、まるで牧場？のような環境でございます。

私は、三田中学校から高商(後の神戸商科大学)を経て、三井物産神戸支店へ就職しました。当時としては、エリートの出発でした。

昭和9年、輝子と結婚、新世帯を持ちました。

寺本家は、父・清蔵が「淡路屋」という駅弁屋の二代目として活躍中で、福知山線の生瀬で駅売弁当商を営んでおりました。

「淡路屋」は、清蔵の父・寺本秀次郎が創業した店で、



2代目
寺本清蔵さん



初代
寺本秀次郎さん



鮎寿司を売っていた当時の生瀬駅と従業員の人々。上右の写真は大正10年の淡路屋本店前。右から2番目が清蔵氏の妻、晴子さん。

明治36年1月「淡路屋商店」として開業、今年で創業90年を迎えることになりました。

ともかく、父・清蔵が営む「淡路屋」の鮎寿司は、清流・武庫川の鮎を姿造りの押し寿司にして、魚の形にした折に詰め、駅売りしていたのですが、なかなか評判も良く、売れておりました。

なぜ生瀬の駅で……と思われるでしょうが、実は、舞鶴へ向けて走る蒸気機関車の、ここが給水・給炭場になっていたからです。停車時間が長いので、お弁当を売るには好条件だったのですね。

もう一つ、生瀬駅が有馬温泉の玄関口として、多くの観光客を迎えていたことも利点でした。

家業は盛んでしたが、私は三井物産の社員として新婚生活をスタートしたのでした。

ところが、世の中は戦時態勢への変動期で、間もなく昭和13年に召集を受け、朝鮮そしてソ満国境守備隊へ、中隊長として巡遣され、酷寒の地で4年の歳月を送ることになったのです。

昭和17年1月、帰国したのですが4月には今度は会社からの辞令で、酷暑の地・バンコックへ転動になりました。

バンコック支店に着任後二週間、更にビルマのラングーン支店へ転じました。そしてまたまた、4ヵ月後、再びバンコック支店へ戻り、ここで終戦を迎えたのです。

日本も大変な時期でしたが、私の仕事は、三井物産の先端として、タイ南部のハジャイという所で現地のゴムや錫などを買いつけて日本へ送ると言う、重要な役割りを果たしていたのです。

バンコックでの抑留生活のあと、昭和21年7月。夢にまで見た祖国・日本へ帰ってくることができました。

★終戦、そしてあこがれの神戸駅へ

私は、再び三井物産神戸支店で働くことになりました。終戦直後の日本は、食糧事情が極端に悪く、主食の米・麦など統制されており、家業も一時は休みました。それから間もなく、再開したのですが、駅弁は、ほとんど野菜ばかりで主食がない。「これでも弁当か？」



生瀬駅で売っていたお弁当のラベルの数々。上等御弁当は金三十拾五銭となっている。下は名物。鮎寿司。のラベル。

と客からお叱りをいただく状態でした。

父・清蔵は、なかなかのアイデアマンでした。何か主食に代わるものを……と、考えついたのが小麦のふすま（皮屑）。これを粉にして手造りの蒸しパンに仕上げ、野菜弁当の中に組みこんで売り出し、大好評を得たのです。その頃でした。国鉄から「福知山駅で販売してみても……」とお誘いがありました。生瀬とは比べようもない大きな福知山駅は、皆の心を躍らせました。が、この話は、母の一言でつぶれてしまいました。

清蔵から話を聞かされた母・晴子は、即座に「やめ。やめ。あんな寒いところへ行きとやない！」と決めつけたのです。願ってもない勿体ない話を、ことわるなんて……。

ところが、なんとそれから暫くして、再び国鉄から「神戸駅で……。」と話が持ち込まれました。

「行こ。行こ。……今度も母の一言で決まりました。福知山を断つたため、神戸駅へ出てくることができました。この劇的な一幕は、母が主役で出来たことでした。

父は、生瀬から、神戸駅前に本社を移しました。願ってもないこの神戸への進出劇には、国鉄側でこんな事情が発生したためのものであります。と申しますのは、それまで神戸駅で営業していた駅弁屋が、戦災に会い、一家断絶してしまつたので、淡路屋はまさにピンチヒッターとして選ばれたということなのです。

三井物産神戸支店で、相変わらず会社勤めをしていた私に、或る日、父・清蔵が「ちょっと一緒に来てほしい。」と話しかけてきました。

焼け跡のひろがる神戸の街を、神戸駅から兵庫駅へ……。

また折返して神戸駅へと、高架沿いにだまって歩く父。私も仕方なくだまってついて行きました。

とある喫茶店へ入った父は、そこで初めて「会社をやめてくれんか。」と切り出したのです。

財閥解体直前のタイムシグでした。私の将来もどうなるか不測のとき。私は培ってきた自分の力を、家業に活かす道を選びました。

★戦後の混乱期を乗り越えて

背広にネクタイ・皮靴から、ネジリ鉢巻・長靴への転身です。

その頃の神戸駅は、ソ連からの引揚者達が続々と復員して来ました。その人達は駅前で輪を作り、ソ連の歌を大声で合唱し踊り狂うという日々が繰り返されていました。遠くから出迎えに来た家族には目もくれず、集団で氣勢を挙げアジるのです。

その影響からか、私どもの従業員の中にも、そのイデオロギーを持ち込む者が出てまいりました。刺身包丁を突きつけて「前借りさせる。」と強談判です。

私はまだ若く、体力的にも自信がある時だったので、一喝して包丁を引取り、傍らの従業員に「調理場へ返しとけ。」と渡しました。私をおどした男は、一瞬で肝を抜かれたのでしょうか。その後は大人しい男に変貌してしまいました。

こんなことから、私は人事も含めて、本格的に事業に取組む決心をしたのです。

まず従業員の問題は、心を一つにまとめて、信頼関係を厚くすることに重点を置き、力には力、情には情をもつて当たりました。

次に頭を痛めていたのが事業場のこと。そこで目をつけたのが駅の高架下を利用する案です。手始めに2スパンを譲ってもらつたのを足掛りに、続いて大阪鉄道管理局へお願いして4スパンを貸してもらい、調理場を造ることができました。

更に、この調理場に続く奥のスペースも借りることができ、広い調理場が完備されました。

まだ、この時代は主食に困っておりまして。民間では間米が大つびらに流通していましたが、私どもの店で扱

うことはできません。意を決して「ご無理ながら……」と、生田署へ陳情に行きました。

「神戸駅で弁当を求める旅客は、満員溢れるばかりに詰めこまれた車内で、疲れ果てた上、一樣に栄養不良の状態でお腹をすかせている。そんな人達に、せめて少しでもお米のご飯の入った弁当を分けて、力つけてあげたい。」世情をふまえての強談判に、さすがの生田署の係官も

「よろしいとは言えないけれど、まあ、しかるべく……。」と、暗に闇米を使うことを了解してくれたのです。

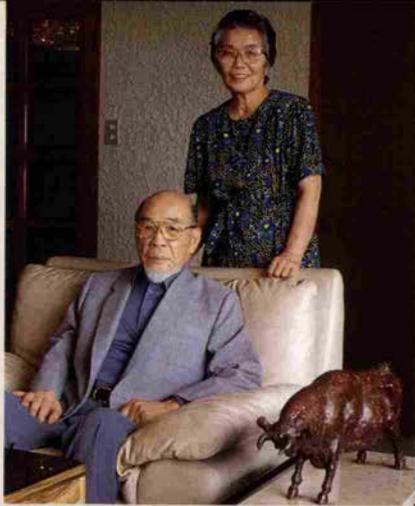
このほか、等外米と称する屑米も買って……と、工夫に工夫を重ねて時代を乗り切ったのです。

★アイデアで築いた「神戸発・弁当文化」

こうして、父を助けながらうけついで家業は、私にとって戦後の混乱期が出発点でしたが、その後世相の好転につれ、旅行ブームに乗って、事業も順調に伸びていきました。

もともと駅弁といわれる弁当は、いわゆる幕の内的なものが全国一様に売られており、ご飯のおかずは、一部地方色の味が入っているようなことでした。現在のよう「○○駅名物の○○弁当」という風潮ではなかったのです。

このことに気がついた私は、なにか神戸の味を100%活かした特別弁当のようなのを作っては……と思いつきま



▲自宅できつろぐ寺本淳巳・輝子夫妻

▲昨年2月新築された本社ビル



した。

もう昭和も40年代に入っていた頃でしたが、私は早速当時の調理長に相談しました。今までにない名物弁当を……、神戸名物を……ということで、牛乳入りご飯と牛肉料理を組合わせ、「肉めし」の弁当を誕生させました。これは現在も販売しておりますが、当時はまさに画期的な駅弁の登場だったのです。

この発想は、息子の混(まじ) (現・社長) が受けついでくれました。混自身、なかなかのアイデアマンで、これは清蔵ゆずりの血とでもいうのでしょうか、次つき名物弁当を開発していきました。

神戸の歴史をテーマにした「平家弁当」、しゃぶしゃぶ弁当の「松風」「村雨」。そして神戸ワインが誕生すると、早速それを取り入れて、ワインの小瓶が入った「ワイン弁当」を作るなど、今では18種類ものユニークな神戸名物弁当が発売されております。

さらに全国に先駆け、画期的といわれた工夫として、冷たい弁当のイメージを一新した、すきやき・中華粥などの「あつたか弁当」や、スチームを利用した「あつちち弁当」など、豊かな弁当文化を造り出していきました。

次男の勤(つと) (現・専務) も、兄に負けぬ仕事ぶりで、良く兄を補佐し、孫の督(たすけ) (現・常務) も傘下に加わって、三本の矢で、しっかりと事業を支えてくれております。

私も、やつと安らかな日常を楽しめる身になりました。今年8月で満80歳を迎えます。

世に80歳を「傘寿」と申します。

私は、今、森進一さんの歌にもあるように、雨の降る日は傘になり、やがていつか世の中の傘に……なりたいたと、願っております。が、今の健康が之を許すかどうか、心許ない気も致します。

亀井一成の

ズーム
IN
ZOO

No.330

日本初、
ダチョウの母は代理ママ



鳥は巢の中にある卵を区別できないから、他人の卵でも一生けんめいに抱く。

例のホトトギスの話。

動物園でさせることがあ
る。電気で人工的に孵化
させるより、ヒナが丈夫
であるからでもある。つ
まり仮母とか仮親になっ
てもらふこと。

【ダチョウの仮母になっ
たエミュー】

現生の鳥の中で最大の

ダチョウの卵は1.5キロ（ニワトリの30個分位）動物園では12月〜3月にかけて卵を産む。これまでに一度も卵を抱いたことがない。

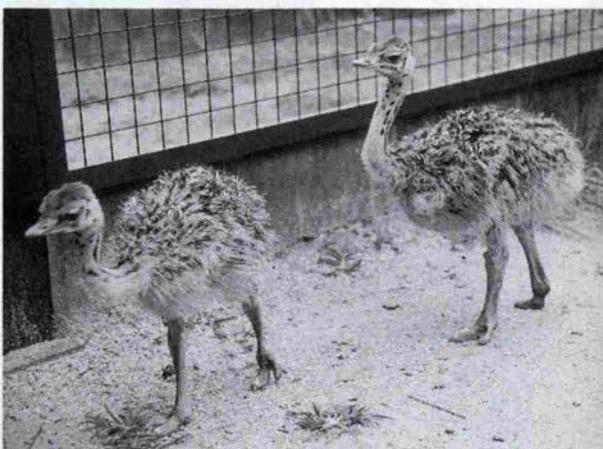
孵卵器でヒナを誕生させようと長年試行錯誤。

ニワトリ用に作られた温度設定38〜39℃の孵卵器ではダチョウの卵は全て失敗。熱帯アフリカでは地表の温度は直射では50℃にもなる。ダチョウは他の鳥のように抱いて暖めるよりは陽影をつくるように抱くのだという説。そして地上の「くぼみの巢」に複数のメスが次々卵を産み40個位にもなる。多くの鳥は一度抱ける数（クラッチという）を産むと、あとは卵を産まないで、自分の体温で卵を暖める。

だがダチョウはちがう。今は故人になったダチョウ孵化の名人、半沢昌飼育員は、

「カメさん、ダチョウの体温はものすごく低いのや〜」

代理ママのおかげで元気に孵化した2羽のダチョウ 下は中岡飼育員



器用な彼は苦心して孵卵器の温度設定を36〜37℃に低め、次々ダチョウのヒナを誕生させた。

その彼でさえ、隣にいるエミュー（オーストラリア）に卵を抱かせたことがない。1993年春、今年も卵を産み始めたダチョウに、ふとアイディアが浮んだ。安福、岡本、中岡、中筋、石川飼育スタッフは隣りで産卵中のエミューに、ダチョウの卵5個を抱かせた。

エミューの卵は緑色で白いダチョウの卵とは全く違う。心配だった。しかし、大小の卵を抱かせると、大きな卵を手厚く抱くという鳥の習性が効を呈したのだろうか、ダチョウの孵化日数48日目5卵中、2羽のヒナが見事に誕生した。

「日本では初めての快挙だ」

最初の1羽のヒナは雨の日の誕生でヒナが少し弱ったりで心配されたが2番めのヒナが生まれたことで2羽共順調に育っている。



姿はちがえど、我が子。アヒルの子を守るシチメンチョウ。

(エサ)

野生では草や昆虫、トカゲ、ノネズミ、鳥のヒナをまるのみにする。動物園では青草、ホウレンソウ、リンゴ、ズーフード、煮サツマイモ。

飛ぶことのできない鳥類のことを走鳥類とよび、翼よりも脚が強力でヒトをよく見分け知らない人には襲ってくるのでご用心。只今シマウマ舎の北、ラマの隣で元気にいる。

【アヒルを抱いたシチメンチョウの仮母】

かつてのこと、

「おじちゃん、卵が落ちてたの……」

園内放し飼いのアヒルが植込みの茂みの、あちこちに卵を産む。親切なお客さまが拾って下さる。

同じ頃シチメンチョウが卵を産み巣ごもっていた。手を入れると10個抱き必死に動かない。

一腹抱ける数だけを産むと巣に座り卵を暖めはじめ。ホルモンの作用で胸から下腹の羽が抜けて皮膚が見え、体温は40度、とても暖い。そして座り始めたら岩のように頑として動かない。

シチメンチョウには悪いけど、他の2羽のメスも座り始めたので、シチメンチョウの卵をそちらの巣に移し、アヒルの卵15個と入替えたら、1日1回、水とエサをやっても3日に1度水を飲んだだけ。そして第28日目、可愛いヒナが15卵中9

羽誕生した。

【いのちがけの仮母】

卵を抱き始め7日もすると卵の胚が発生して心臓が鼓動を打ち、親鳥は卵が生きていることを認識できる。

「亀井さんハクチョウは中死卵を認識できるように思えてね！」

「神戸でも巢外に放りだした卵を調べたら、みな発生していなかった……」

京都動物園の小鳥学芸員と話しあったことがある。

生後2日目、9羽のヒナを連れ、シチメンチョウが園内散歩を始めたなら、

「あれ、アヒルの赤ちゃん連れてはる……」

たちまちヒトばかり、人気を集めた。しかし、生後10日目、キジ科のシチメンチョウの母は、アヒルとは知らない。毎日、水溜りをさけ、草むらばかりに連れて行く。

だが突然フラミンゴ池めがけて9羽のヒナが駆けだし、スイスイ泳ぎ始めたなら、泳げない我身を池の深みに沈めてまでヒナを追った。自分の体温で暖めた9羽のヒナを、姿がちがうから嫌いということなくエサを掘りおこし食べさせ、危いときは羽の中に1羽のこさず隠す。ヒナが生き残ってもらうためのあらゆる努力をする母鳥だった。

こども動物園相談コーナー

☆野生動物の特徴習性、飼養のしきたり、飼育体験などをお答えします。
☆相談に来た方に「動物ものしり百科」をさしあげます。シリースで集めて下さい。

- 日曜日と祝日のみ
- 10:00~11:30、13:30~15:00
- 動物科学資料館内

動物ものしり百科



フクロウの仲間

36
フクロウの仲間

よなをびプロフェッサーPの研究室 岡田 淳



1



2



3



4



5



6



7



8

~~~~~

第八回

# あべこべの日米比較

福井 有

大手前女子学園 法人大本部長  
 大手前短期大学 副学長  
 大手前ビジネス学院 院長  
 比較文化論担当



仕事柄よくアメリカへ行く機会があるが、アメリカ人と初対面で挨拶する時にまず慣れないといけないことは日本人の様に名刺を交換せずに名前を覚えてしまうことである。

“Hi how are you. I'm Bill.”というふうに、パーティーなどで何人かを紹介されおたがいファーストネームで名のりあう。そして別れぎわに関心するのはさきほど初めてあった数名の人が、やはり私の名前を覚えていて “It was nice meeting you Mr. Fukui.” とやられるのでこちらは面食らうのである。というのは、こちらにとってはアメリカ人は皆同じように見えてどれが田三どれが Tom か覚えられないからである。

ところが日本人の場合は何が何でもまず初対面の時は名刺を交換する。従って相手名を覚えるまでは何度も名刺を見る事ができる。(このお陰で、ゴルフや私服で外出する時も名刺はポケットにしのばせておく心がけが必要なのであるが……)

この名刺には相手の会社名や役職が書いてあるので、日本人の場合はおおよそその人の会社での地位や権限、さらには暮らしぶりまで想像することができるのである

が、アメリカ人の場合は会社名よりも個人を売り込むことを念頭に考えるので、肩書を表す名刺などは日本人が考えるほど重要に扱わないのである。

さらに手紙の住所の書き順もよく見ると、県、市、町そして番地そして氏名がくるのが日本式、アメリカの場合はまず個人名そして番地、町、市、州、国の順番でこれは個人が先か住んでいる場所が先かという考え方の違いのような気がする。

「仕事は何をされていますか」と尋ねた場合、たいていの日本人は「〇〇会社に勤めています。」と会社名で答えるがアメリカ人の場合は自分の職種、たとえばコンピュータ技師や会計士などとまず答えて、それから会社名を言う場合が多い。つまり日本人にとって会社とは自分にとっての社会的存在そのものであって、心のよりどころのような考えをもつのに対し、アメリカ人にとっては会社あくまでも個人との契約関係にある一組織にすぎないのである。

従って会社の業績が悪化した場合、日本人は会社のために個人を犠牲にすることも辞さないが、ドライなアメリカ人はさっさと辞表を出してライバル会社へ自分を売



大学でも和やかに日米交流が……

り込むといったようなことも、わりと平気で行うのである。

どちらが良いかは別にして、この対比を佐藤隆三ニューヨーク大学教授は「We 社会」と「Me 社会」と表現

している。

時間に対する感覚も日本では過去、現在、未来のことが現在の時点で共存し、過去をふり返りながら昔の経験の延長上に現在があると考える。

ところがアメリカ人が最も重視するのは、現在、あるいは現在に近い将来で、過去の次元に生じたことを参考にするといったようなことはあまり無い。例えば日本人は反省会をよくやるが、アメリカ人は戦略会議が大好きだ。また履歴書の書く順序が日本の場合過去の経歴から時を追って書くのが習慣になっているが、アメリカのそれは、まず現在の事柄から書いていくのが通例になっており、これも日米あべこべである。

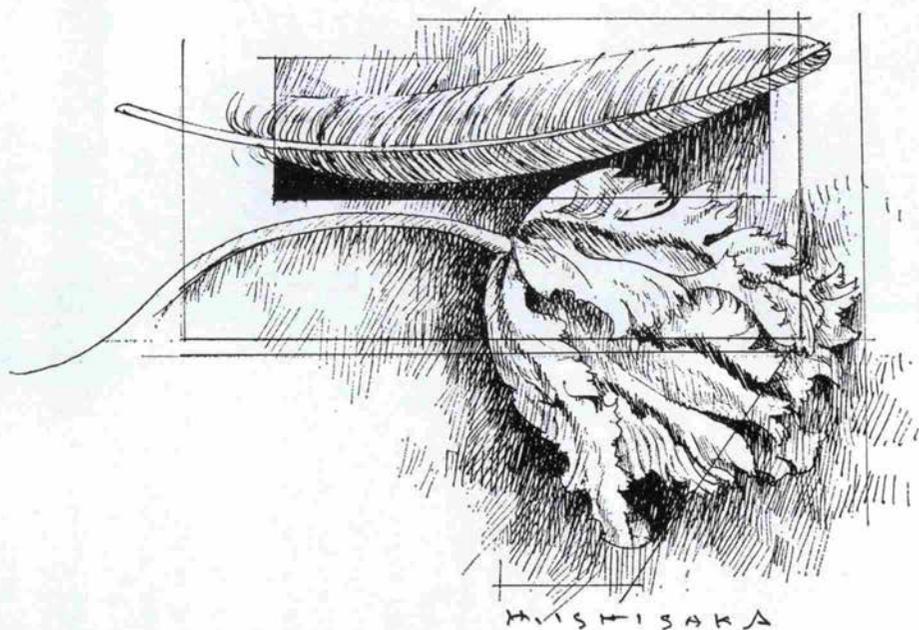
さて、このように生活上のちよっとしたきまりごとがいちいち違うアメリカ人と交渉するとなるとさらにやっかいなことが起こる。まずアメリカ人に会うためには必ず予約がある。彼らはこの時間の予約を大変重要に考え、近くに寄ったのでちよっと話を聞いてほしいという日本式のもの嫌われるのである。

何か条件が出て決断をしなければならぬ交渉においてはアメリカ人は、まずその交渉において自分側にとって一番有利な条件に導くことを第一義に考える。つまり「Yes」or「No」の社会で相手のことはおかまいなしなのである。

これに対し、日本人は交渉を行う場合の目的はお互いに満足出来る点でおり合うことを最終目標とする。つまり交渉をまるくおさめて、相手と友好的な関係になることを望むのである。

アンケート調査などでも日本人に意見を求める場合、「良い」、「悪い」の他に「どちらでもない」という条項が必ずあるように、日本は「はい」でも「いいえ」でもない「まあまあ」の社会なのである。

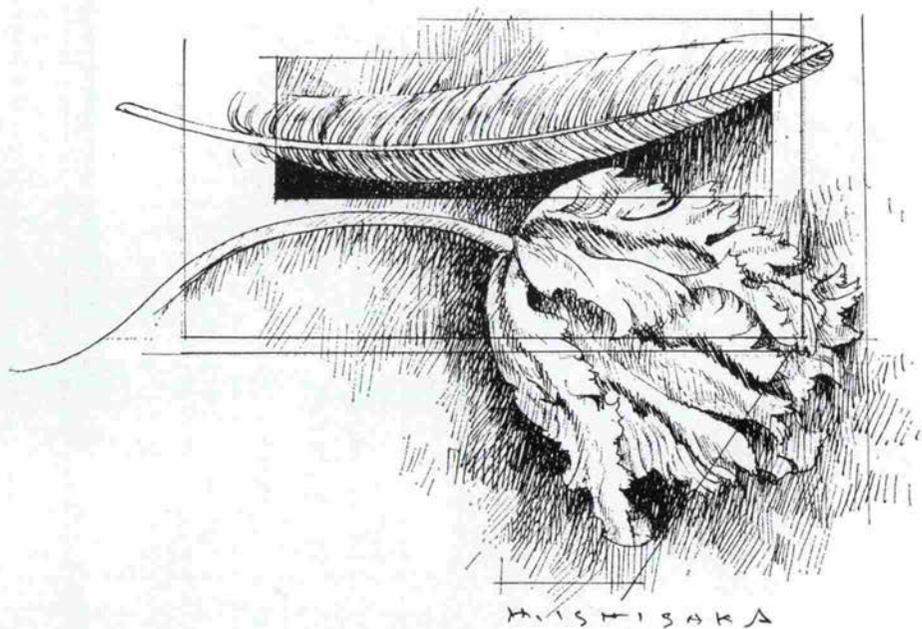
自分の経験上、アメリカ人と度々交渉した中でこの「まあまあ」の概念を相手に理解させるのが大変むづかしいと考えているこの頃である。



暑中お見舞い申し上げます。

1993 SUMMER

|                                                                             |                                                                                             |                                                                     |                                                                               |                                                                                |                                                                                 |                                                                                                             |                                                                                    |                                                                           |                                                                               |                                                                             |                                                                                     |                                                                               |                                                                                                   |                                                                           |                                                                              |                                                                                              |                                                                                  |                                                                 |                                                                                          |                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| <p>財団法人 井植記念会</p> <p>理事長 井植貞雄</p> <p>神戸市垂水区青山台一―二二―一<br/>電話(〇七八)七五―一五二六</p> | <p>財団法人 上月教育財団</p> <p>理事長 上月景正</p> <p>神戸市中央区中山手通四―三―一五<br/>中山手安田ビル二階<br/>電話(〇七八)二七―一―二二</p> | <p>兵庫信用金庫</p> <p>理事長 園田正和</p> <p>姫路市北条口三―一二七<br/>電話(〇七九)八―一―二五五</p> | <p>三輪運輸工業株式会社</p> <p>取締役社長 三輪吉郎</p> <p>神戸市中央区脇浜町二―一―一<br/>電話(〇七八)二五―一五〇〇一</p> | <p>株式会社 チクマ</p> <p>代表取締役社長 宇野修</p> <p>神戸市中央区元町通三―二―一八<br/>電話(〇七八)三三―三―九二〇一</p> | <p>㈱神戸マツダモーターズ</p> <p>取締役社長 橋本一豊</p> <p>神戸市兵庫区東柳原町三―二―〇<br/>電話(〇七八)六七―一五〇二一</p> | <p>DXアンテナ株式会社</p> <p>代表取締役 前山博<br/>代表取締役 毛利昌義<br/>代表取締役 藤野良夫</p> <p>神戸市兵庫区浜崎通二―一―五<br/>電話(〇七八)六八―一〇〇〇一五</p> | <p>株式会社 加美乃素本舗</p> <p>代表取締役社長 宮崎幸三</p> <p>神戸市中央区熊内橋通三―三―二五<br/>電話(〇七八)二三―一―四五五</p> | <p>カワノ株式会社</p> <p>代表取締役 河野忠博</p> <p>神戸市長田区大道通五―一五<br/>電話(〇七八)六三―一―二六一</p> | <p>寄神建設株式会社</p> <p>代表取締役社長 寄神美好</p> <p>神戸市兵庫区七宮町二―一―一<br/>電話(〇七八)六八―一―三二二</p> | <p>入船株式会社</p> <p>代表取締役社長 藤池昭之</p> <p>神戸市灘区友田町五―二―二<br/>電話(〇七八)八四―一―〇五三五</p> | <p>三宮ターミナルビル株式会社</p> <p>代表取締役社長 平山乾二</p> <p>神戸市中央区雲井通八―一―二<br/>電話(〇七八)二九―一―〇〇〇一</p> | <p>東亜外業株式会社</p> <p>取締役社長 小本洋一郎</p> <p>神戸市兵庫区西出町二―四―一二<br/>電話(〇七八)六八―一―二二一</p> | <p>神戸ベイシエラトン<br/>ホテル&amp;タワーズ</p> <p>代表取締役社長 阿部信造</p> <p>神戸市東灘区向洋町中一―一―三<br/>電話(〇七八)八五―七―七〇〇〇</p> | <p>モザイク商店会</p> <p>会長 東中弘吉</p> <p>神戸市中央区東川崎町一―六―一<br/>電話(〇七八)三六―〇―一七二五</p> | <p>石光商事株式会社</p> <p>取締役社長 石光輝男</p> <p>神戸市灘区岩屋南町四―三―四<br/>電話(〇七八)八六―一―七七九一</p> | <p>有限会社クレセント・<br/>インターナショナル</p> <p>代表取締役 草野修</p> <p>神戸市中央区布引町一―一―一三<br/>電話(〇七八)二三―一―〇七三二</p> | <p>大関化学工業株式会社</p> <p>取締役社長 津田明和</p> <p>神戸市東灘区本山中町一―一―一六<br/>電話(〇七八)四五―二―二五九一</p> | <p>兵庫大佛</p> <p>能福寺</p> <p>神戸市兵庫区北逆瀬川町一<br/>電話(〇七八)六五―二―一七一五</p> | <p>大和実業株式会社</p> <p>代表取締役社長 岡田一男</p> <p>大阪市北区芝田二―一―一八<br/>西阪急ビル十階<br/>電話(〇七)三七―一―八五七一</p> | <p>ナニワ印刷株式会社</p> <p>代表取締役社長 西井雄三</p> <p>大阪市北区天満一―九―一九<br/>電話(〇六)三五―一―七二七一</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|



暑中お見舞い申し上げます。

1993 SUMMER

バンドー化学株式会社

取締役社長 雀部昌吾  
 神戸市中央区御幸通六一―一二  
 電話(〇七八)二三二―二九三

コナミ株式会社

取締役会長 上月景正  
 神戸市中央区港島中町七三―二  
 電話(〇七八)三〇三―一三三

株式会社 シャルレ

代表取締役社長 林雅晴  
 神戸市須磨区塚栄三三―一二  
 電話(〇七八)七九二―七〇〇

新星和不動産株式会社  
 神戸支店

取締役神戸支店長 浅野好明  
 神戸市北区鳴子二―七―二  
 電話(〇七八)五九三―六六二

株式会社 神明

取締役社長 藤尾益也  
 神戸市中央区海岸通六一―一〇  
 電話(〇七八)三七二―二三二

神戸シーバス・繁華船・通船・引船  
 早駒運輸株式会社

取締役社長 渡辺浩美  
 神戸市中央区波止場町五一―四  
 電話(〇七八)三三二―〇五一

株式会社 神戸西武百貨店

代表取締役常務 野々村知久  
 神戸市中央区東川崎町一―三―四  
 電話(〇七八)三六〇―〇二一

株式会社 バンボレー

取締役社長 山中健  
 神戸市中央区生田町一―一―二  
 電話(〇七八)二三二―一三二

レストラングループ  
 株式会社 サンコトブキ

代表取締役社長 細谷俊雄  
 神戸市中央区北長狭通一―九―一  
 電話(〇七八)三九二―二二六

日本ソムリエスクール

校長 木村克己  
 神戸市中央区日暮通三―五―一〇  
 電話(〇七八)三三二―〇八〇

株式会社 神戸吉兆

代表取締役 湯木貞一  
 代表取締役 湯木喜和  
 神戸市中央区小野通八―一―八  
 電話(〇七八)二六二―三六三

株式会社 ジャパンダイヤモンド  
 インポート

代表取締役 佐々木章  
 神戸市中央区磯上通八―一―三  
 電話(〇七八)二四二―三九九

ホテルグランドビスタ

代表取締役社長 岸本昭男  
 神戸市中央区加納町二―三―七  
 電話(〇七八)二七二―二二二

株式会社 ソシエ・ワールド

代表取締役社長 高橋孝  
 東京都新宿区西新宿一―二―二  
 新宿サンエビル二―四―二  
 電話(〇三三)三三四―六四二

株式会社 カンキ

代表取締役社長 桐月正邦  
 神戸市須磨区外浜町二―九―一  
 電話(〇七八)七三三―二二二

株式会社

極東エンタープライズ

代表取締役 黒木崧  
 神戸市中央区脇浜町二―一―八  
 極東ビル  
 電話(〇七八)二五二―一八九〇

エグロコーヒーマシ  
 株式会社 ジャパン  
 スイスカンパニー

代表取締役 松下資雄  
 神戸市兵庫区荒田町一―二―四  
 電話(〇七八)五三二―〇〇四

神戸中央法律事務所

弁護士 奥村孝  
 弁護士 石丸鐵太郎  
 弁護士 堀岩夫

株式会社 海皇

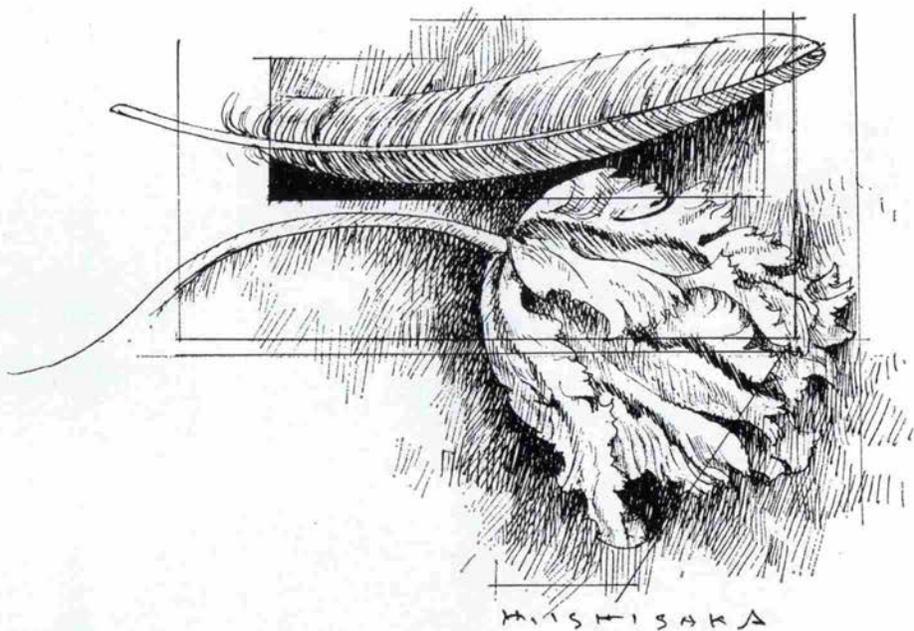
代表取締役 潘式舜  
 神戸市中央区港島中町四―一―一  
 神戸ポートアイランドビル十一階  
 電話(〇七八)三〇二―〇〇八

株式会社 アルプラン

一級建築士事務所  
 代表取締役 中川俱子  
 神戸市東灘区田中町一―三―二六―一八  
 電話(〇七八)四二二―六六二

株式会社 新生公司

代表取締役社長 森治良  
 神戸市中央区元町通一―一―一  
 電話(〇七八)三九二―四五〇



暑中お見舞い申し上げます。

1993 SUMMER

|                                                                                   |                                                                       |                                                                                           |                                                                                           |                                                                                     |                                                                                  |                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>社団法人 神戸港振興協会<br/>神戸ポートタワー<br/>神戸海洋博物館<br/>神戸市中央区波止場町二二二<br/>電話(〇七八)三九一六七五一</p> | <p>関西信用金庫<br/>理事長 高山彦一<br/>神戸市中央区下山手通二二二一三<br/>電話(〇七八)三三三二一五一</p>     | <p>角南商事株式会社<br/>スナミビジネスマシン(株)<br/>代表取締役社長 角南忠昭<br/>神戸市中央区小野柄通七一―一八<br/>電話(〇七八)二五一五五一一</p> | <p>株式会社 神戸阪急<br/>取締役店長 内山正美<br/>神戸市中央区東川崎町一七二<br/>電話(〇七八)三六〇一三三一</p>                      | <p>財団法人 神戸市開発管理事業団<br/>六甲愛らんど館<br/>神戸市東灘区向洋町中四一四<br/>電話(〇七八)八五八一〇九五</p>             | <p>株式会社 空間構成研究所<br/>代表取締役 森崎律子<br/>神戸市須磨区南町一―二二六<br/>電話(〇七八)七三二二八二八</p>          | <p>チャイナエクスプレス<br/>ライン株式会社<br/>代表取締役社長 高橋強<br/>神戸市中央区新港町四一五<br/>ポートターミナル内<br/>電話(〇七八)三二二一五七九一</p> |
| <p>株式会社 ワールド<br/>代表取締役社長 畑崎廣敏<br/>神戸市中央区港島中町六一八―一<br/>電話(〇七八)三〇二一三二二一</p>         | <p>株式会社 淡路屋<br/>取締役社長 寺本 湜<br/>神戸市東灘区魚崎南町三六―一八<br/>電話(〇七八)四五三一六八二</p> | <p>伊藤ハム株式会社<br/>代表取締役社長 伊藤研一<br/>西宮市高畑町四―二七<br/>電話(〇七八)六六一二二三一</p>                        | <p>横山倉庫株式会社<br/>磯上モータープール<br/>取締役社長 横山 吉雄<br/>神戸市中央区磯上通八一―一五<br/>電話(〇七八)二三二一五三一</p>       | <p>株式会社 瀬戸本淳建築研究室<br/>代表取締役 瀬戸本 淳<br/>神戸市中央区北野町二七―一―二〇<br/>電話(〇七八)二二二一六六五</p>       | <p>胃腸科・外科・放射線科<br/>井原クリニックス<br/>院長 井原 基<br/>神戸市灘区大内通二五―一<br/>電話(〇七八)八〇二一八〇八二</p> | <p>株式会社 パラディ北野<br/>代表取締役社長 谷中牧子<br/>神戸市中央区北野町二一六―一四<br/>電話(〇七八)二七一―二九七九</p>                      |
| <p>小泉製麻株式会社<br/>取締役社長 植村武雄<br/>神戸市灘区新在家北町二一―一<br/>電話(〇七八)八四一―四二四一</p>             | <p>株式会社 ノーリツ<br/>代表取締役社長 太田敏郎<br/>神戸市中央区明石町三二<br/>電話(〇七八)三九一三三六</p>   | <p>今津建設株式会社<br/>取締役社長 今津成生<br/>神戸市兵庫区吉田町二二七―一〇<br/>電話(〇七八)六七二―三六三二</p>                    | <p>オリックス野球クラブ<br/>株式会社<br/>代表取締役社長 猿渡敏男<br/>神戸市須磨区緑台<br/>管理センター二階<br/>電話(〇七八)七九五―一〇〇一</p> | <p>角田内外国特許事務所<br/>所長・弁理士 角田嘉宏<br/>神戸市中央区東町一三三一―一<br/>電話(〇七八)三二二一八八三三<br/>貿易ビル三階</p> | <p>光安建築設計事務所<br/>建築家 光安義光<br/>神戸市中央区北長狭通三二―二一六<br/>電話(〇七八)三九一―〇〇七五</p>           | <p>丸山印刷株式会社<br/>代表取締役社長 丸山 茂<br/>神戸市中央区八幡通一―一―二二<br/>電話(〇七八)二五一―四一四一</p>                         |